

「アセアン工学系高等教育ネットワーク (AUN/SEED-Net)」の概要 (ASEAN University Network/ South East Asia Engineering Development Network - Phase II)

1. 背景

「アセアン工学系高等教育ネットワーク」(通称 SEED-Net) プロジェクトは、1997~98 年のアジア経済危機に際して日本政府が打ち出した支援策、「橋本イニシアティブ」と「小渕プラン」に基づき形成された重要政策案件である。

アジア経済危機を契機に、ASEAN 各国が安定的に経済・社会発展を達成するためには、グローバルに進展する知識型社会に対応し、技術・知識を開発・活用できる工学系の高等教育人材育成の重要性が認識された。

このような課題に対応するため、ASEAN10 カ国各国の工学系トップ大学 19 校の教育・研究能力の向上を目的とし、これを域内 19 大学間及び本邦大学 11 校のネットワーク形成と協働を通じて達成する事業として、2003 年 3 月から SEED-Net プロジェクトが開始された。

2. SEED-Net の枠組み

SEED-Net の中核は、①メンバー大学教員の能力強化を行う「留学プログラム」(域内修士、サンドイッチ博士、本邦博士)と、②留学プログラムと連携して行われる「共同研究」、の二つの活動である。

留学生の研究課題は、本邦大学の技術支援を受けて実施される「共同研究」と関連した研究となる。「共同研究」テーマは分野毎にメンバー大学と本邦大学の協議で設定され、ホスト大学での主催のもと、留学生・非ホスト大学の参加と本邦大学の支援を得て行われる。ホスト大学は共同研究の中核となり、本邦大学の技術支援を受けて研究能力を向上させるとともに、共同研究を大学院プログラムに組み込み、その教育の質の改善・向上を図る。さらに、留学プログラムや共同研究の円滑な実施と効果の向上のための技術支援を行う「本邦教員派遣」などを行っている。

このような包括的な枠組みにより、留学による高位学位取得を通じたメンバー大学教員の質の向上(個人レベル)、共同研究によるホスト大学大学院プログラムの強化(組織レベル)、そして、留学、共同研究、その他の活動を通じた大学間ネットワーク形成(組織間レベル)、の三つのレベルでの Capacity Development 的なアプローチが可能となっている。

3. フェーズ 1 (2003.3~2008.3) の成果

フェーズ 1 では、以下のような成果が達成された。

① メンバー大学の教員の能力強化

留学プログラムによる高位学位の取得：計 444 名(修士 311 名、博士 133 名)。

② ホスト大学の大学院プログラムの改善(教育・研究能力)

大学院プログラムの国際化、カリキュラムの効率化・改善、研究数や論文数の増加等。国際ランキング向上。

③ ASEAN のメンバー大学及び日本の大学とのネットワーク強化

皆無に近かった ASEAN 内の実効的な人的・組織的ネットワークの形成・強化。

④ AUN/SEED-Net の枠組み・運営体制・方法の確立

4. フェーズ 2 (2008.3~2013.3) の協力概要

フェーズ 1 の成果に基づき、更なる基盤強化(制度化)と発展、さらに持続可能性を目指し、下記のような活動を行う。

① メンバー大学の更なる能力強化

CLMV¹中心とした人材育成の継続、各分野ホスト大学の地域 COE 化、CLMV での大学院設立・強化の支援

② ネットワークの基盤強化と対象者の拡大

地域学会の新設、地域国際会議の開催、共同研究等への産業界・コミュニティ・他大学の参加促進

③ ASEAN の地域・産業界が共通に抱える分野横断的な課題に対処する共同研究実施

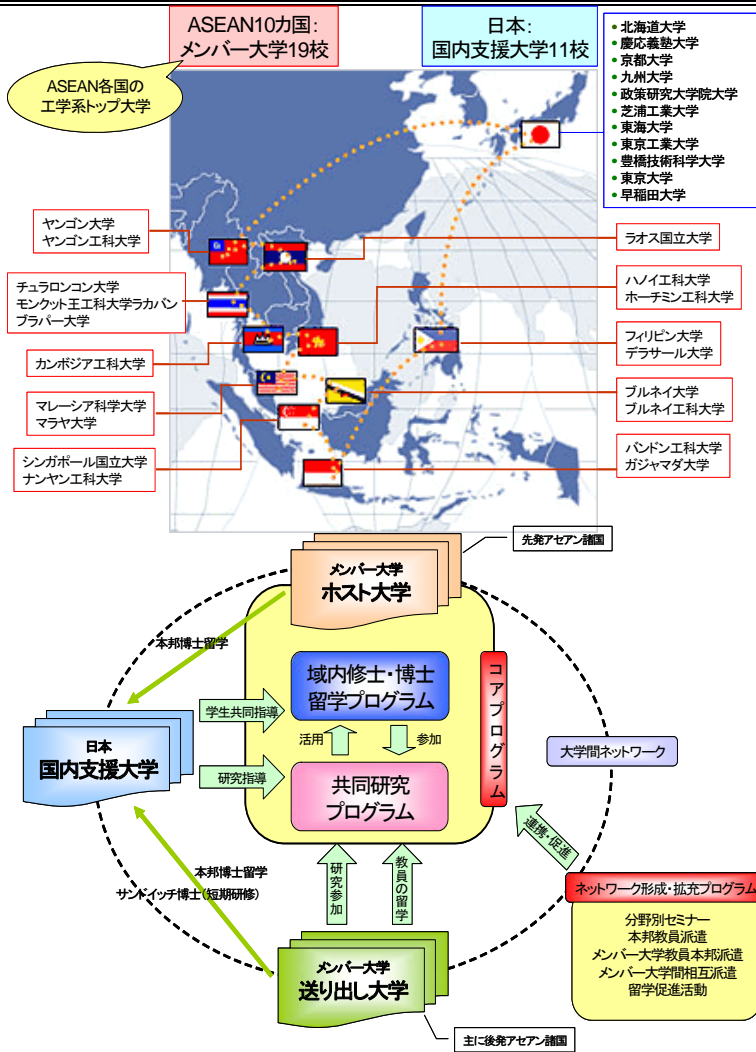
環境、エネルギー、防災、天然材料、バイオを対象とした共同研究を行い、社会へのインパクト確保を目指す。

④ 共同大学院プログラム・コンソーシアム(「パートナーシップ大学」)の形成

メンバー大学がもつ資源(教員、カリキュラム、教材、機材、遠隔教育等)を共有・総動員し、プログラムを共同実施することにより、「アセアン域内最高峰」の質の高い教育・研究を目指す。

5. 今後について

フェーズ 2 終了後について、SEED-Net 有識者会合を開催し、今後のあり方について検討中。



¹ CLMV: C(カンボジア)、L(ラオス)、M(ミャンマー)、V(ベトナム)の略称